

平成 28 年 11 月 14 日

歯科における人材育成に関わる提言

新しい技術の開発を核とする医療イノベーションとともに、歯科から政策提言すべき重要テーマが歯学・歯科医療を担う人材の育成です。わが国の一般的な歯科医師養成の過程は、歯学部に入學したのち 6 年間の学部教育を修め、国家試験合格後に 1 年またはそれ以上の臨床研修を経たのち本格的に歯科医療に従事するというものです。学部教育においては、歯科医師として必要な臨床能力を確保するためのモデル・コア・カリキュラムが定められており、モデル・コア・カリキュラムに則っての教育は大学間でほぼ共通しています。一方、それに続く臨床研修については、研修施設の特色や研修プログラムの独自性が教育の成果に反映され、さらにその後の生涯研修では、地域や社会との関わりの中で、研修・研鑽を通じて各々の専門性をより高めていく、という意味合いがあります。これらの教育・研修の成果は、歯科医療を通じて国民に還元されなくてはなりません。

歯学協は、会員学会に所属する歯科医師が、医療の専門職として生涯を通じて学び、新たな知識や技能を身につけることで社会のニーズに応え、それによって国民からの信頼をより高めていくことが肝要と考え、以下の提言を行います。歯科医療を支えている歯科衛生士ならびに歯科技工士の育成については関連の学会や教育協議会で検討が進められているので、今後歯学協としての提言をまとめていく所存です。

- 健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人の育成を進めます。
歯学協は、会員学会を通じて、学部教育ならびに卒後研修において、歯科疾患と全身疾患の関係を理解し健康長寿社会の実現に貢献できる医療人の育成を進めます。
- 学部教育における訪問診療や多職種連携を経験できる実習カリキュラムの導入を促します。
歯学協は、会員学会を通じて、大学病院で実施している臨床実習に関して、

診療参加型臨床実習のさらなる充実を図るとともに、さらに訪問診療や多職種連携を経験できる実習カリキュラムの導入を促します。

- 連携医療の場で口腔機能管理の専門職として活躍できる人材の育成に取り組みます。

歯学協は、会員学会を通じて、大学、病院、歯科医師会それぞれが関わる多職種連携チーム医療の場において、口腔機能管理の専門職として信頼される人材の育成に取り組みます。

- 他の医療分野と健全かつレベルの高い競争が可能な優秀な人材の確保を目指します。

歯学協は、会員学会を通じて、他の分野からの知的好奇心にも応え得る、最新の科学技術を応用した歯科医療の開発と、その役割を担う能力のある人材の確保を目指します。